



竹田陽一の独立起業物語

【マル秘メルマガ】より 2通目その2

◆4. 2回目の訪英でランチェスター先生と会える

翻訳が終わってから程なく1987年11月下旬、私は再びイギリスに行き、ランチェスター先生のお墓に念願のバラの花を捧げる事ができました。

込み上げて来る感情を押さえながら、ランチェスター法則を経営の大事な部分に応用し、これをテープやビデオで販売することを約束しました。お墓の前に20分ぐらい立っていたら、辺りはすっかり暗くなっていました。

次の日コベントリー大学のフレッチャー氏を訪ね、ランチェスター法則の原書とランチェスター先生の生涯を書いた伝記の本をプレゼントして貰ったことに対して、お礼を伝えました。

その時フレッチャー氏から「来年はランチェスター先生が自動車の第1号を作ってから100年になるので、記念行事の一環として本を二冊出すことにしている。この本にランチェスター法則を経営に応用した記事を書いてくれないか」ということと、「出版するための予算が足りないので、少し寄付をしてくれないか」という話があり、私は2つともこの話を承諾しました。

フレッチャー氏との話し合いが済んだあとランチェスター先生が製作した電気自動車展览展示してあるバーミンガムの科学博物館に行き、現物を見ることにしました。

そのとき偶然にランチェスター先生が製作していたスピーカー展览展示してあるのが見つかったのです。

このスピーカーで閉館までの30分間、ベートーベンのシンフォニー、第5番を聞くことができました。

それは私にとっては、まさに運命的な出会いでした。

◆5. ランチェスターカー100周年記念のラリーに参加

それからおよそ1年後の9月、ランチェスターカー完成100年の式典が開かれることになったので、私達夫婦は再び渡英し、その式典に参加しました。

イギリスにはクラシックカーの愛好家が多勢います。その中にランチェスターカーのクラシックカーを所有する人達が集まって協会を作っていて、クリス・クラーク氏がその会長を務めています。

1988年9月5日、コベントリー大学の正門前に勢ぞろいした75台のランチェスターカーは隊列を組み、パトカーに誘導されながらランチェスター先生縁の地を、二日間にわたって回りました。

75台のランチェスターカーが通ると道路沿いの家から皆顔を出し、手を振ってくれました。

何ヶ所かの公園で休憩しましたが、ランチェスターカーが75台も止まると、たちまち黒山の人だかりができました。

2日目の4時頃、ランチェスターカーは再びコベントリー大学の正面前に集合し、そして100年祭は無事終了したのでした。

このとき私が書いた小論文が載った記念行事の本も完成し、現在もコベントリー大学の図書館に納められています。(続く)

ランチェスター経営(株)



〒810-0012 福岡市中央区白金1-1-8 チュリス薬院301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>